令和４年度　特色ある道徳教育推進校
匝瑳市立八日市場第一中学校
研究主題

豊かな心を育み、人との関わりを深める中で
生きる力を高める道徳授業の工夫

取組１　授業のねらいを明確にした授業展開の工夫

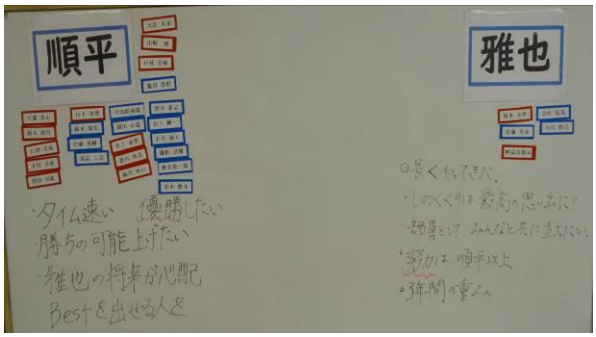
【工夫１　学年集会形式での道徳授業】
○生徒が１年間の学習目標を明確にする。
　年度当初に道徳教育推進教師が各学年で授業を実施することにより、「なりたい自分」を設定した。学期ごとに振り返りの時間を設け、年度当初に設定した「なりたい自分」にどれだけ近づけているか、振り返りの時間を設けた。
【工夫２　ローテーション道徳】
○学校全体で道徳教育を行い、生徒の道徳心を育む。
　各学年で道徳科の授業をローテーションで行った。同一教材を複数回行うことで、発問や切り返しの改善点を見出し次の授業に生かすことができる。副担任も授業を展開し、担任は授業参観やＴ２として授業に参加することで、生徒の様子や意見を把握しやすくなる。
【工夫３　教員の特性を生かした指導】
○タブレットやホワイトボードなど、教員の特性（個性）を生かした指導をする。
　教具や授業形態の工夫により、多面的・多角的に物事を捉える場面が増え、他者に対する思いやりや他者を理解しようとする機会が増えた。

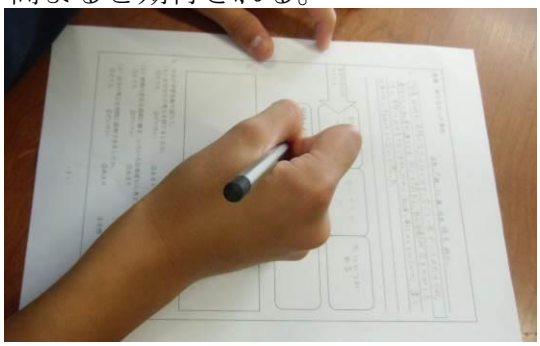
【工夫４　教材の整備】
○３学年全ての教材を揃える。
　板書用資料、場面絵をクラス分揃えることにより、誰でも道徳の授業が行えるよう整備した。同時展開でも授業が行うことができる。

取組２　多面的・多角的に捉えられる発問の工夫

【工夫１　相互授業参観】
○互いに授業参観する機会を設定する。
　授業者と参観者が授業後に互いに意見を出し合った。そうすることで、多面的・多角的に捉えられる発問について検証し、授業に生かすことができる。
【工夫２　指導案・ワークシートの蓄積と活用】
○指導案・ワークシートは検証後、修正したものを保管する。
　学年ごとに行った授業の資料を検証、修正したものをファイリングし保存した。また、教科書以外の資料を使用した場合も保管しておき、参考資料として次年度も活用する。
【工夫３　話し合い活動の工夫】
○小グループ・ペアでの話し合いをし、ワークシートの回覧をする。
　話し合い活動の工夫に加え、ネームプレートを活用し個々の考えをクラス全体に意思表

示した。また、ワークシートを小グループで回覧し、友達に対する意見を書き込むことで、自分の意見に自信をもつ生徒が増えた。ワークシートを共有することで、発表や発言が苦手な生徒の自己表現の機会が増え、自己肯定感が高まると期待される。

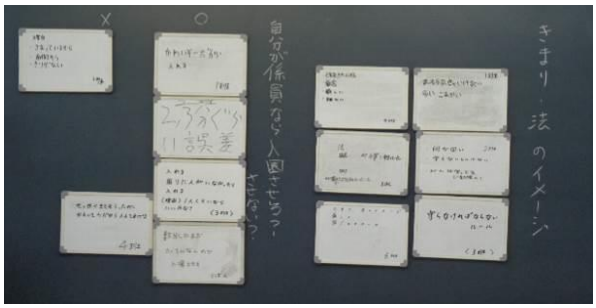




【工夫４　ＩＣＴ機器（タブレット端末）やホワイトボードの活用】

〇多くの生徒の意見を個々に閲覧する。

ＩＣＴ機器やホワイトボードを活用することで、他者の意見を容易に共有することができ、自分の意見と他者の意見とを比較することで、考えを深めることができる。



主な成果と課題

〇年度当初に学年集会形式で授業を行うことで、学級ごとの偏りがなく１年間の目標が明確となった。また、教材の整備やローテーション道徳により、各教員の特性を生かした授業が展開され、学校全体で道徳心を育もうという姿勢が向上した。

●授業後に授業者と参観者が意見を交換してフィードバックする場を意識的に設定し、各自が授業力向上を図る必要がある。さらに、ホワイトボードやＩＣＴ機器などの教具を適切に活用する場面や適正な使用方法について、研修を積んでいく必要がある。

授業実践事例

中学校　３年Ｂ組　道徳科学習指導案

令和４年１０月１４日（金）

１　主題名　物事を公正、公平に判断する（Ｃ－(11)公正、公平、社会正義）

２　ねらいと教材

ねらい「仲間を思いながらも、公正・公平に物事を考えようとする道徳的な判断力を養う。」

教材名「最後の駅伝大会」出典「中学生の新しい道」千葉県中学校長会編

３　主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容について教師の捉え方

よりよい社会を実現するためには、公正さを重んじる精神が不可欠であるが、中学生の世代は自己中心的な考え方や偏った見方をしたり、多数の意見やイメージに同調したりして、他者に対して不公平な態度をとってしまうことがある。そこで、そうした自分

の弱さと向き合い、周囲に流されない、より強い意志をもつことや、公正、公平な判断をする際には何が根拠となるのかを深く考えることで、よりよい社会にしていこうとする実践意欲と態度が育つと考え、本主題を設定した。

（２）生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

道徳授業の問いかけについてはじっくりと時間をかけて考える生徒が多く、周囲の人の考えを参考にしながら物事を考える姿勢が身に付いている。「最後の駅伝大会」は、公正、公平な判断の難しさを、主人公の気持ちを通して深く考えさせるものである。この教材を扱うことで、主人公を自分に置き換え、相手を尊重しつつ、自分の立場を考えながら公平に判断する心を育むことを期待したい。公正、公平に物事を決める態度を培うことで、自身の決め方や考え方を更に広げるチャンスとなることが期待できる。

（３）使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法（教材）

本教材は、「公正、公平」を主題としたモラルジレンマ教材である。駅伝部の部長である主人公の健斗が、中学校生活最後の大会に出場する選手を雅也と順平のどちらにするか、監督の先生から相談を受ける。３年間一緒に練習に励んできた雅也と、他の部からの助っ人として加わった順平のどちらを選手として推薦することが、チームのために部長としてよりよい選択なのか、健斗は悩んでいる。２人のチームメイトのどちらを選手として推薦するかを、主人公の立場からだけでなく、チームに関わるそれぞれの立場から多面的に考える手立てとして、Ｙチャートを用いる。どちらを推薦するかについて、自分はどのような判断をし、態度をとるのか、答えのない問いを自分の価値観に照らし合わせて考えていくことになる。

４　展開（一部省略）

過程	学習活動と主たる発問 予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点 （評価の視点）	資料
導入 ５ 分	１　道徳的価値に対する方向付け 「学級会長を選ぶときにどんな基準で判断しているか」のアンケート結果を知る。	・アンケート結果をもとに学級の実態を共有する。 ・よりよい選択について考えるきっかけとする。	アンケート結果 ＴＶ
展開 35 分	２　教材「最後の駅伝大会」について話し合う。 〇基本発問 「今回の選択について、様々な立場からの気持ちを考えよう。」 ・部長の健斗なら、迷うと思う。 ・当事者は、どちらも努力してきた分、自分が選ばれたいと思う。 ・チームメイトなら、ずっと一緒にやってきたメンバーで出たいと思う。 ３　◎中心発問 「あなたは選手として２人のうち、どちらを推薦するか」（第一次選択）	・話し合いに時間をかけるため、事前に資料を読む時間をつくる。 ・「部長の健斗」、「当事者」、「チームメイト」それぞれの立場になりきり、気持ちを推測させる。 ・黒板に３つの立場で整理し、多面的に考えるヒントとする。 ・Ｔ１が指名、Ｔ２が板書を行う。生徒の発言の中で深まりが期待される場合はＴ２が発問を投げかける場面もある。 ・Ｙチャートから、それぞれの想いが複雑に絡み合っていることに気づかせる。 ・黒板にネームプレートを貼ることで、自分の意見を明らかにさせる。 ・Ｔ１が雅也、Ｔ２が順平の立場に分かれ、生徒の議論の進行、補佐を行う。（指名、	黒板 Ｙ字枠 人物絵 人物説明文 ワークシート

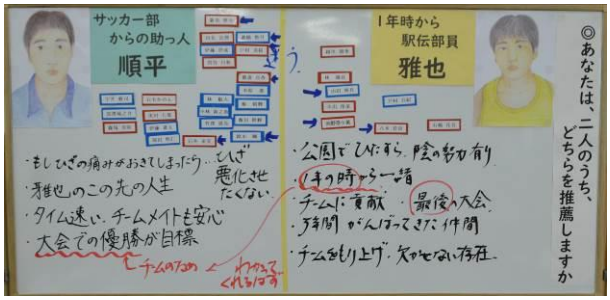
	・優勝できなくても、雅也ならチームみんなで納得がいく。 ・３年間一緒に頑張ってきた姿を見ているから、雅也に走ってほしい気持ちが大きい。 ・優勝するために、順平を選手に選んだ方がよい。 ・頑張ってきたメンバーのことを考えると、少しでもタイムがよい順平を選ぶ。 ４　「改めて、あなたは選手として２人のうち、どちらを推薦するか。公正・公平に判断してみよう。」（第二次選択） **映像資料参照**	進行していない方が板書を行う） ・意図的な指名と双方の考えに共感する投げかけで、多角的な視野を広げる手立てとする。 ・選択の根拠を語り合う中で、個々の考えを深め合う。 ・両者についての意見が出そろったら、相手側の意見を聞いてどう思ったか個々の立場に投げかける。 ・第二次選択で考えが変わった生徒を指名し、思考の広がりや深まりを共有する。 ○雅也、順平両者の立場やその他多くの人々の立場から公正、公平に考えることができたか。（話し合い、ワークシート）	黒板 ワークシート
終末 10分	５　本時の振り返り これからの生活で公正、公平に判断する際に、何を大切にしていきたいかについて考える。 ・自分が偏った考えだけで判断していないか振り返ること。 ・実際には目に見えないことも想像して判断すること。	・中心発問での意見交流での学びをいかし、考えをまとめるよう助言する。 ○自分の意見と友達の意見を比較し、考えを深めることができたか。（ワークシート）	ワークシート

５　他の教育活動との関連

特別活動や総合的な学習の時間における、集団生活の向上について話し合う場面で、相手の意見に耳を傾けたり、それを受けて自分の考えを見つめ直したりすることで、様々な見方や考え方に触れ、深く考えられるようにする。

６　授業の様子

（１）板書



（２）生徒の様子

○生徒の感想

・感情を優先したり私情をはさんだりせず、客観的に物事を考えることが大切だと思った。

・みんなが納得できて後悔しないことは何なのか考えることが公正・公平に決めるということだと思う。

○参観者の感想

・授業のテンポが良く途中でも内容がわかる板書であった。

・生徒への温かい言葉かけ、言葉に詰まった場面の支援、授業を広げる切り返しや生徒をゆさぶる質問が多数あった。

・Ｔ１、Ｔ２の役割分担により、生徒の意見をより多く拾い上げていた。